

◆今後の新興・再興感染症に備えた医療体制の確保

1. 新型コロナウイルス感染症第6波までの医療・療養体制

【2/16時点】

	病床数	患者数	
確保病床	892	638	2.66%
うち、臨時の医療施設・入院待機施設	110	0	0.00%
うち、重傷者用病床	171	106	0.44%
うち、高度重症病床	51	11	0.05%
宿泊療養確保居室数	1,126	157	0.65%
自宅療養者数		23,333	97.34%

2. 新型コロナウイルス感染症に関する情報

- 国立感染症研究所の分析では、2021年7月1日から10月31日の期間における新型コロナウイルス感染者28,446人を対象に、年齢階級別に重症化割合および死亡割合を算出したところ、いずれも依然と比べ低下しており、重症化割合は0.98%（50歳代以下で0.56%、60歳代以上で5.0%）、死亡割合は0.31%（50歳代以下で0.08%、60歳代以上で2.5%）であった（第70回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料、2022年2月2日）。
- 置き換えが報告されているデンマーク及び英国からBA.2系統に関して、2次感染率が高く発症間隔がBA.1系統に比べて短縮するという報告があった。これらの要素が、BA.1系統に比してBA.2系統の感染者数増加における優位性に寄与している可能性がある。国内でもBA.2系統の割合が増加する可能性があり、その場合、感染者数の増加（減少）速度に影響を与える可能性がある。

【出典】SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統（オミクロン株）について（第8報）

- デンマーク保健省傘下の研究機関SSIは1月26日、「予備的な推計によれば、BA.2の感染力はBA.1の1・5倍」と発表した。同国ではこれまでBA.1が主流だったが、1月3週目の段階で検出された新型コロナのうち65%をBA.2が占め、主流となった。「BA.2の影響で、感染拡大は2月中もさらに続く可能性がある」とSSIの担当者は述べている。

【出典】別系統の「BA.2」、国内でも市中感染か 感染力さらに1.5倍？ [新型コロナウイルス] [オミクロン株]：朝日新聞デジタル

- SARS-CoV-2 B.1.1.529系統（オミクロン株）感染による新型コロナウイルス感染症の積

極的疫学調査（第5報）：疫学的・臨床的特徴

表3-1. 入院時臨床症状・画像・血液検査所見, n=139

		全症例 n=139	ワクチン接種者 n=89	ワクチン未接種者 n=50
意識状態	清明	139 (100.0%)	89 (100.0%)	50 (100.0%)
バイタルサイン	体温, °C	36.8 (36.5-37.2)	36.8 (36.5-37.2)	36.8 (36.6-37.0)
	脈拍数, 回/分	86 (77-98)	86 (77-98)	86 (75-100)
	呼吸数, 回/分	18 (16-20)	18 (16-18)	17 (16-20)
	収縮期血圧, mmHg	121 (110-138)	129 (113-143)	114 (98-125)
	拡張期血圧, mmHg	83 (72-92)	85 (77-92)	74(67-91)
	酸素飽和度, %	98 (97-98)	98 (97-98)	98 (97-99)
臨床症状	症状あり	106 (76.3%)	72 (80.9%)	34 (68.0%)
内訳	咳嗽	64 (46.0%)	47 (52.8%)	17 (34.0%)
	咽頭痛	47 (33.8%)	33 (37.1%)	14 (28.0%)
	発熱 (37.5°C以上)	43 (30.9%)	29 (32.6%)	14 (28.0%)
	鼻汁	25 (18.0%)	19 (21.3%)	6 (12.0%)
	湿性咳嗽	24 (17.3%)	15 (16.9%)	9 (18.0%)
	倦怠感	15 (10.8%)	11 (12.4%)	4 (8.0%)
	頭痛	15 (10.8%)	10 (11.2%)	5 (10.0%)
	筋肉痛・関節痛	8 (5.8%)	6 (6.7%)	2 (4.0%)
	食思不振	8 (5.8%)	5 (5.6%)	3 (6.0%)
	呼吸困難	4 (2.9%)	1 (1.1%)	3 (6.0%)
	下痢	3 (2.2%)	0 (0.0%)	3 (6.0%)
	吐き気	3 (2.2%)	0 (0.0%)	3 (6.0%)
	皮疹	2 (1.4%)	2 (2.2%)	1 (2.0%)
	味覚異常	1 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)
	嗅覚異常	1 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)
	腹痛	1 (0.7%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)
	血痰	1 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)
胸痛	1 (0.7%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	
胸部X線写真or CT画像所見	肺炎像あり	7/124 (5.6%)	6/87 (6.9%)	1/37 (2.7%)
	内訳 胸部エックス線写真	3/108 (2.8%)	2/75 (2.7%)	1/33 (3.0%)
	CT画像	5/45 (11.1%)	5/37 (13.5%)	0/8 (0.0%)

連続変数は中央値 (median) と四分位範囲 (interquartile range: IQR) で示し、カテゴリー変数は、絶対および相対的な頻度 (%) で示した。

- ・入院時、106例（76.3%）が何らかの症状を認めていた一方、無症状者は33例（23.7%）で、うち5例が入院後に何らかの症状を認めた。
- ・入院時、139例中124例が胸部X線検査もしくはCT検査を受け、7例（5.6%）に肺炎像を認めた（X線：3/108例、CT：5/45例）。血液検査所見は概ね正常範囲内だった。

### 3. 今後の新興・再興感染症に備えた医療体制の確保

- 次の感染拡大シナリオ
  - ・感染力は第6波オミクロン株BA.1系統の1.5倍
  - ・肺炎を伴う入院対象者は感染者の6%
  - ・無症状者は23%

- 最大感染者数  
第6波療養者数ピーク 24,128人 ⇒ 次の感染ピーク時 36,192人
- 入院対象者  
感染ピーク療養者 36,192人 ⇒ 入院対象6% 2,172人
- 軽症者・無症状者  
感染ピーク療養者 36,192人 ⇒ 軽症者71% 25,696人  
無症状者23% 8,324人

■ 確保すべき医療体制

	患者数	稼働率	病床数
入院	2,172人	72%	3,016床
うち、重症	160人	63%	254床
高度重症	17人	27%	62床
軽症者向け療養施設	25,696人		

■ 検査・調査体制

- 第6波新規感染者数ピーク 2,996人 ⇒ 次の感染ピーク時 4,494人
- ピーク時検査必要数 89,880 回/日 ※検査陽性率：5%
- 積極的疫学調査体制

4. 次の感染拡大に備えた医療体制確保に必要な看護職員数

○ めざすべき看護体制

- ・ 高度重症病床は常時患者 1 人に看護職員 2 人
- ・ 重症病床は常時患者 1 人に看護職員 1 人
- ・ 中等症病床は常時患者 4 人に看護職員 1 人
- ・ 6時間勤務、正循環勤務 4 交代、勤務間隔12時間以上、週30時間労働
- ・ 1 時間働いたら15分休憩
- ・ 完全週休 2 日制、諸休日・休暇完全取得

※ 看護未来塾「緊急要望書・新型コロナ感染症患者のいのちをまもるために—医療荒廃を防ぐ看護の観点から—」

- ・ COVID 19 対応の感染防禦策を周知して実践 しても、通常業務以上の時間がかかる上、極度の神経の集中で、看護師の労働密度の過密化がいつそう強まっている。

・看護師は、診療面での役割と併行して、患者の最も近くにおいて、病期や病状の如何に関わらず、食事や排泄、身体の清潔など人間らしく生きていく上で欠かせない諸々の営みを支援するとともに、苦痛の緩和、不安の軽減を図る職務を遂行しなければならない。直接患者の身体に触れてケアをする立場上、自らも感染リスクに曝され、感染媒介者になり得る危険を常に持っている。

・感染防御の手段は同じであるにも関わらず、ともすると軽症患者のケアが不十分となりがちである。医療崩壊を防ぐ上で、重症者のための人工呼吸器や ECMO 心肺装置の必要性とともに、重症化を防ぐ上での看護ケアの有用性を発揮できる安全な職場環境と条件が整っていない。

◇労働強化に耐える看護師の心身の力を担保するための休息と栄養を保障すること。

・労働時間の短縮（6時間の勤務シフトー中国モデル、VDT作業のように1時間働いたら15分休憩）など。

・休憩室の整備 → 換気のよい「3密」を防ぐ広さ、仮眠ベッド シャワー設備  
上記に伴い交代要員を確保すること → 当該施設内だけの問題にしてはならない。

・食事の提供 → 栄養に配慮した美味しい食事を外部委託等で提供し（休業中の飲食店等の協力を得るなど）、最低の食事時間を保障する。

\* 休みを保障する指数

完全週休2日制、諸休日・休暇の完全取得：勤務日204日

休みを保障する指数 =  $365 \div 204 \approx 1.79$

\* 看護職員必要数

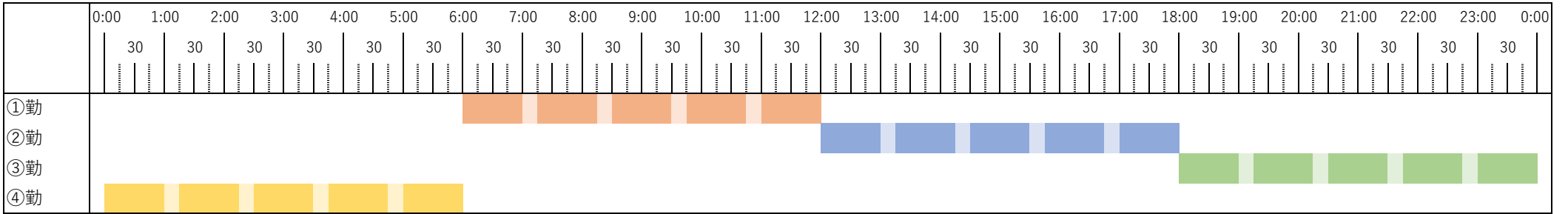
高度重症	62床	×看護職員常時2人×4交替×指数1.79	≒881人
重症	(254床 - 62床)	×看護職員常時1人×4交替×指数1.79	≒1,378人
中等症	(3,016床 - 254床)	×常時患者4:看護1×4交替×指数1.79	≒4,944人
総数			7,203人

【参考】大阪大規模医療・療養センター500床（C・Dゾーン）

- ・常駐医師1名
- ・オンライン医師1名
- ・看護師4～10名(15～30名) ※括弧内はローテーション勤務に必要な総人数
- ・リーダー看護師1名

軽症者 25,696人 51施設(500床) ×10+1人×3交替×指数1.79 ≒3,036人

軽症・無症状対応含む看護職員必要数 10,239人



勤務日	勤務日	勤務日	休み	勤務日	勤務日	休み
6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00
①勤	②勤	③勤		④勤	①勤	

					休み	休み
6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00	6:00   18:00
④勤	①勤	①勤	②勤	③勤		